

世界各国で消費される魚の存続を保証するための大西洋をまたいだ保護政策

クロマグロは世界各国で消費される魚であるだけでなく、もっとも注目される魚の一つです。この巨大魚は体重が700kg(1,500ポンド)あり、大西洋を7,700km(4,800マイル)にわたって回遊し、深さ1,000メートル(3,000フィート)まで海に潜ることができます。また、人間と同じく恒温動物です。体温を一定に保つ機能のおかげで、大西洋を回遊するときに直面する様々な条件や水深にも耐えることができます。

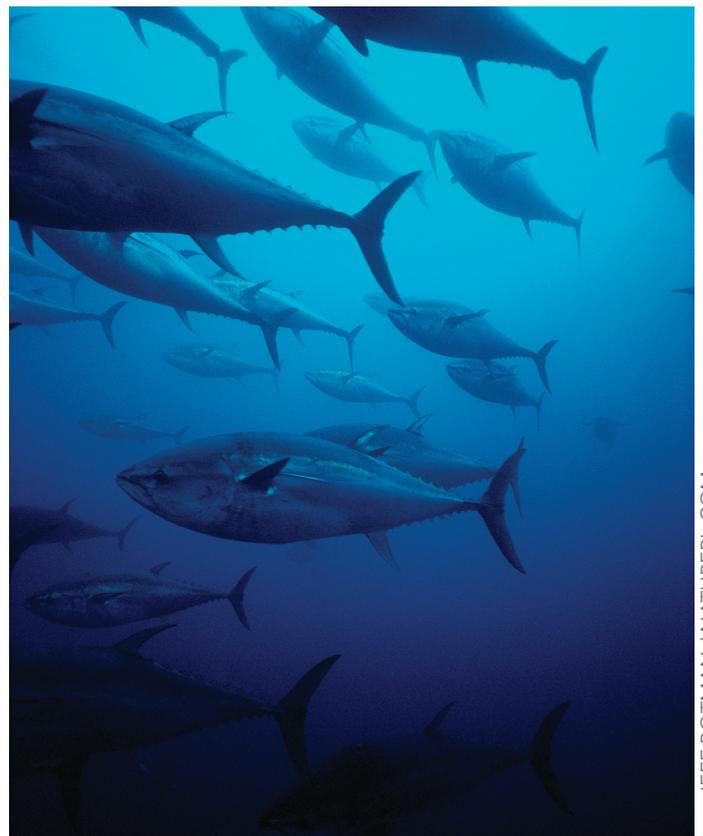
また、クロマグロの生殖能力にも目をみはるものがあります。通常、産卵期が決まっています。その間に12回の産卵が行われますが、大型の雌になると1回の産卵で4千5百万個もの卵を産むことができます¹。つまり、一回の産卵期に概算で5億4千万個の卵が産まれることになります。

しかし嘆くべきことには、クロマグロ漁が容赦なく行われた結果、本来たくさんいたこの生き物がいまや種の危機に瀕しています。寿司用の需要が拡大し、乱獲に拍車がかかって頭数が激減したため、2010年に国際社会によりクロマグロは国際取引禁止種にするよう検討されました。これまで知られているクロマグロの産卵場所だけでも保護するため、迅速かつ断固とした行動をとることが求められています。それにより頭数が回復し、この貴重種の長期的な持続可能性を確保することができるようになるでしょう。

産卵場所などの一定水域で漁獲禁止を行うことは有効な漁業管理手段のひとつであり、生物多様性の保護、生息数の回復、産卵期の魚の保護のために定期的実施されています。それはまさに、大西洋のクロマグロとそれを生活手段とする漁業従事者の双方にとって有益になります。大西洋クロマグロの産卵場所として知られていることから、種の存続のためには産卵場所の確保が最優先事項だからです。魚が毎年これらの海域に戻るのには、種の存続のために産卵場所の保護が最優先されているからです。毎年、東大西洋のクロマグロは繁殖活動のため

に水温の高い地中海に集まります。そして毎年、マグロの生活環におけるこうした大切な段階に漁船の一団が魚を捕獲しようと全速力で走り回り、魚の群れ全体をいわゆるまき網で囲い込みます。この漁法では、1年でもっとも大切な時期にいる魚を群れごと捕獲してしまいます。まさに、種の危機に瀕している魚に対し、いたずらに産卵のピーク時に産卵場所で狙いを定めることで、将来に向けた種の存続が脅かされています。

西大西洋クロマグロ系群もまた、唯一の幼魚生育水域であるメキシコ湾で重大な危機に直面しています。こうした危機の原因となったのは、海水汚染そして主にメキシコ湾に置ける海面近くの延縄漁業などの乱獲的漁法です。石油掘削基地ディープウォーターホライズンのメキシコ湾原油流出事故は2010年4月20に始まり、数百万バレルの原油と数千リットルもの分散剤が汚染海域に流されました。その結果、クロマグロの産卵場所であるメキシコ湾は、そのさなかにに汚染されてしまいました。この大惨事の影響はいまだわかっていません。原油流出による環境への影響がさらに明らかにされるまでは、予防策として、こうした産卵期の魚の漁獲は減らされるべきでしょう。



¹ Rooker, et al. 2007. Life History and Stock Structure of Atlantic Bluefin Tuna (*Thunnus thynnus*). *Reviews in Fisheries Science*, 15:265–310.

キハダマグロやメカジキ用の海面近くの延縄漁業による混獲により、クロマグロも捕獲されてしまいます。はえ縄漁業では数百本もの鉤が平均長さ30マイルもの線上に並べられており、これでクロマグロも無差別に捕獲されてしまうのです。こうしたマグロは不要な死を遂げてしまいますが、他の漁法ではこうした混獲が減少しています。

解決策

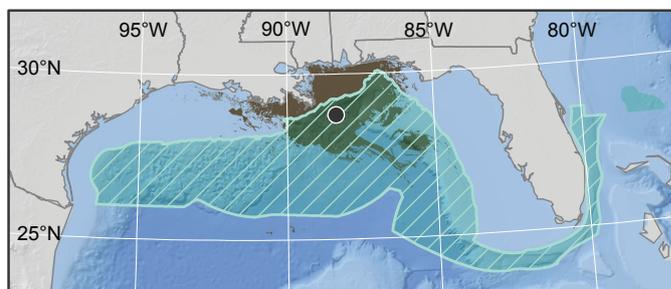
大西洋をまたいだ保護政策

大西洋クロマグロの東側と西側の系群は独立したのではなく、かなりの頭数が互いに混ざり合っています。この二つの水域の頭数は相互関係にあるため、大西洋の両端にある二つの産卵場所は、同様に保護されることが極めて重要です。こうした水域を守ることは、クロマグロという種の将来を確保することにつながります。

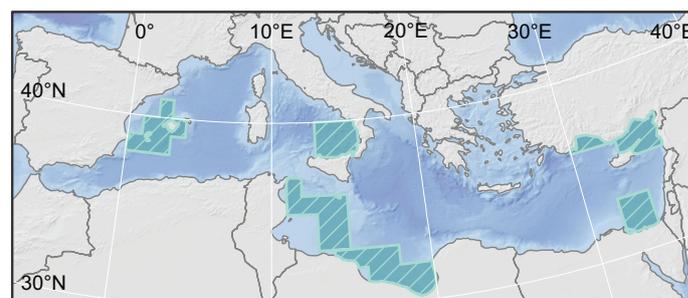
クロマグロの永久的な産卵保護地帯をメキシコ湾と地中海に設けることは、大西洋クロマグロの頭数がより早く回復することに役立つでしょう。そうすることによってこの魚種の存続を助け、将来的な破綻にたいする保険契約となります。クロマグロの産卵場所2カ所を含めた保護規定を制定することにより、この素晴らしい魚は頭数を回復し

て繁殖するための機会が与えられると同時に、クロマグロの繁殖で生計をたてている漁業従事者の仕事も守ることができるでしょう。

図1と2:大西洋クロマグロの分布(*Thunnus thynnus*)



-  クロマグロ産卵場 (NOAA Highly Migratory Speciesのデータによる)
-  BP社の石油掘削基地ディープウォーターホライズンの原油流出事故地点
-  原油が流出した海域 (NOAA-NESDISのデータによる)



-  クロマグロ産卵場 (ICAT Standing Committee on Research and Statistics 2010のデータによる)

より詳しい情報は www.pewenvironment.org 参照

問合せ先: Dr. Susan Lieberman, Director, International Policy. e: slieberman@pewtrusts.org. t: +1-202-540-6361.

Brad Smith Director, Global Tuna Conservation Campaign. e: BSmith-Consultant@pewtrusts.org. m: +27 (71) 688 09 47.

